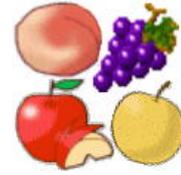


# 平成26年度 果樹情報 第4号

(平成26年5月2日)

福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況 (4月下旬：果樹研究所)

4月下旬の平均気温は5半旬が12.6℃で平年より0.3℃低く、6半旬が15.3℃で平年より1.5℃高く、この期間中の降水量は20.0mmで平年の72%でした。

## 2 土壌の水分状況 (5月1日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmで2.0、40cmで1.7、60cmで2.0と適湿条件の範囲です。

## 3 発育状況 (果樹研究所)

- (1) もも「あかつき」の満開は、平年より2日早い4月19日でした。
- (2) なし「幸水」の満開は、平年より1日早い4月26日でした。
- (3) りんご「ふじ」の満開は、平年より2日早い4月29日でした。
- (4) おうとう「佐藤錦」の満開は、平年より2日早い4月23日でした。
- (5) ぶどう「巨峰」の展葉は、平年並の4月25日でした。

表1 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月14日	4月15日	4月13日	4月19日	4月21日	4月18日
	ゆうぞら	4月15日	4月16日	4月14日	4月20日	4月21日	4月19日
なし	幸水	4月21日	4月23日	4月19日	4月26日	4月27日	4月27日
	豊水	4月16日	4月19日	4月15日	4月23日	4月24日	4月22日
りんご	つがる	4月25日	4月26日	4月25日	4月29日	5月1日	5月2日
	ふじ	4月25日	4月27日	4月26日	4月29日	5月1日	5月3日
おうとう	佐藤錦	4月17日	4月19日	4月16日	4月23日	4月25日	4月24日

注) 平年値は、1981～2010年の平均値 (おうとうは1994～2010年)。

表2 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月17日	4月19日	4月18日	4月25日	4月25日	4月26日

注) 平年は1988～2010年の平均値。

### 東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成26年5月1日発表)

今後の気温の経過は、1週目（5月3日～5月9日）は平年並の確率が50%、2週目（5月10日～5月16日）は低い確率が50%、3～4週目（5月17日～5月30日）は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

#### ○季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

#### ○最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目において、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: [http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t\\_maxmin.html](http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html)

## 4 栽培上の留意点

### (1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が低く凍霜害の危険性が高くなるため、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策として、防霜資材の手配とその準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、下草を5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれがあります）。

また、空気や土壌が乾燥している場合は、適宜かん水を実施し土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下を助長するおそれがあります）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保に努めましょう。

### (2) 結実確保対策

開花期が低温や強風、降水（雪）による湿潤、極端な乾燥等で経過するような場合は、人工受粉を丁寧に行いましょう。

人工受粉の際、花粉を石松子等で増量する場合は、事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数とし、発芽率が30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用しましょう。

なお、凍霜害を受けた花から花粉を採取した場合は、必ず発芽率を確認してから利用しましょう。

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病 害

#### ア りんご黒星病、うどんこ病

開花期前後は、これらの病害の重点防除時期に当たるため、開花直前と落花直後に有効なDMI剤のいずれか一剤を散布し被害防止に努めましょう。

なお、開花期間が長引くような場合は、開花直前の薬剤散布から2週間以上間隔が開かないように心掛け、満開から5日程度を目安に落花直後の散布を実施しましょう。

イ もも灰星病

花腐れは果実への伝染源となるため、見つけ次第摘除し、適切に処分しましょう。

ウ ももせん孔細菌病

第一次伝染源の春型枝病斑は開花期以降に発生し、降雨に伴って病原菌が分散し新梢葉に感染します。

昨年発生が見られた園では、落花直後及び落花10日後に必ず本病の防除剤を散布し、初期感染の防止に努めましょう。また、春型枝病斑やこれに類似する疑わしい枝枯れ等は、見つけ次第徹底してせん除しましょう。

エ なし黒星病

病害虫防除所による腋花芽りん片の越冬病斑調査では、浜通り地方で伝染源の密度が高い傾向にあるため、注意が必要です。

開花期前後は、本病に対する感受性が非常に高く、重点防除時期に当たります。このため、この時期には、本病に効果が高いDMI剤を10日以上間隔が開かないように散布しましょう。

なお、天候等の影響で散布間隔が10日以上開いてしまうことが予想される場合には、受粉が十分に行われた後（満開5日後頃）に、落花直後の防除を行いましょう。

また、第一次伝染源となる花そう基部病斑は見つけ次第除去し、伝染源の密度低下に努めましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

第1世代の防除時期は4月30日頃だったと推測されます。今後は、初期発生を抑えるため、落花10日後の防除を徹底しましょう。

イ ハマキムシ類

今後の気温が平年並みに推移した場合、リンゴモンハマキ及びリンゴコカクモンハマキの越冬世代成虫の誘殺盛期は5月5半旬と予測されます。

このため、複合交信かく乱剤は、これらの越冬世代成虫の発生前に当たる5月3半旬頃までには、設置を完了させましょう。

ウ その他の鱗翅目害虫

ナシヒメシンクイの防除適期は5月1半旬～2半旬と予測されます。受粉用にミツバチを導入している園では、巣箱回収後に速やかに防除を行いましょう。

エ リンゴハダニ

ふ化盛期は4月6半旬頃だったと推測されます。越冬卵の密度が高い園では、落花期以降の発生密度に十分注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に及んだ時点で直ちに殺ダニ剤を散布しましょう。

オ カメムシ類

カメムシ類（クサギカメムシ）の越冬世代の成虫による被害は、幼果の時期から見られることがあります。特に山間部や山沿いの園では、飛来状況をよく観察し、集団的な飛来が見られた時点で、速やかに防除を行いましょう。

表4 果樹研究所における主要害虫の防除時期の推定  
(演算方法は三角法、平成26年5月1日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	—	4月30日	5月17日	5月29日
平年並み	—	4月30日	5月21日	6月4日
2℃低い	—	4月30日	5月27日	6月12日

起算日：3月1日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339  
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧いただけます。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>